

令和元年度第4回青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会 会議概要

日 時：令和2年2月17日（月） 13時00分～14時00分

場 所：青森市保健所（元気プラザ）1F会議室

出席委員：近井宏樹委員、高谷和彦委員、成田祥耕委員、成田憲雄委員、山崎祐佳委員
《計5名》

欠席委員：畑中和紀委員

事務局：青森市保健部長 浦田浩美 青森市保健所長 野村由美子
青森市保健部次長兼保健所副所長 山口朋子
保健部参事保健予防課長事務取扱 加福拓志
保健部参事生活衛生課長事務取扱 佐々木祐子
健康づくり推進課長 柴田一史 浪岡事務所健康福祉課長 小形麻理
健康寿命対策室長 佐々木正幸 健康づくり推進課副参事 白川清悦
健康づくり推進課副参事 榊乃里子
保健予防課主幹 大澤真理子 保健予防課主幹 福士一茂
保健予防課主幹 新岡直也 保健予防課主幹 長谷川治
保健予防課主幹 白取和子 保健予防課主事 櫻田亮太
生活衛生課主幹 工藤晴久 生活衛生課主査 横山直子
健康づくり推進課主幹 田中牧子 健康づくり推進課主幹 種市靖子

会議次第

- 1 開会
- 2 青森市保健部長あいさつ
- 3 案件
(1) 令和2年度青森市保健所の主な事務事業（案）について
(2) 元気都市あおもり健康づくり推進計画について
(3) 条例の制定について
- 4 報告
- 5 閉会

議事要旨

案件（1）令和2年度青森市保健所の主な事務事業（案）について

事務局（保健予防課長、生活衛生課長、健康づくり推進課長）から資料1、参考資料②に沿って説明。

意見・質疑応答 主な意見は以下のとおり

- （委員）「食育」について、就学してから18歳までの時期は、食生活の習慣を身に付ける重要な時期だと考えるので、学校保健に頼るだけでなく、別のアプローチも必要だと思う。
- ◇（事務局）この取組は、子供の頃からの健康的な食習慣づくりをすすめていくため、就学前から小学生まで拡げていっており、学校では肥満度の改善等も図られている。
- ◇（事務局）肥満傾向は子ども世代から青年期に続く課題であり、意見については、

今後、事業を実施していくなかで、検討課題となり得ると思う。

- (委員) 肝炎ウイルスの検査について、もっと市民に普及啓発をすべきだと思う。
- ◇(事務局) 対象となる方が肝炎ウイルス検査を受けられるよう、さらに周知をすすめていく。

案件(2) 元気都市あおもり健康づくり推進計画について

事務局(健康づくり推進課長)から資料2-①及び2-②に沿って説明。

意見・質疑応答 主な意見は以下のとおり

- (委員) 本市は他市に比べアルコールの摂取が多いので「健康への悪影響」について、普及啓発を強化してほしい。
- ◇(事務局) アルコールの適正飲酒の取組については、生活習慣病予防の一環として、「生活習慣病予防ガイド」にアルコールについての健康情報を提供し、健康づくりリーダー等を通じて普及啓発している最中である。今後も強化して取り組みたい。
- (委員) 認知症ケアの取組が少ない印象。認知症ケアについては適度な運動が効果的とされているので、そういう事業があってもいいと思う。
- ◇(事務局) 3階の運動施設での健康増進事業や地域の健康づくりリーダー等による運動講座を行っている。
- (委員) 3階の運動施設の利用者のうち、高齢者の利用率はどのくらいか。
- ◇(事務局) 70歳以上の高齢者の運動施設利用率は利用者全体の約6割である。

案件(3) 条例の制定について

事務局(生活衛生課長、健康づくり推進課長、保健部長)から資料3-①、3-②、3-③及び参考資料①に沿って説明。

意見・質疑応答 意見無し

報告 新型コロナウイルス感染症に対応した「帰国者・接触者相談センターについて」

事務局(保健予防課長)から資料4に沿って説明。

意見・質疑応答 意見無し